国土交通省
中国地方整備局
Ministry of Land ,Infrastructure, Transport and Tourism
Chugoku Regional Development Bureau

お 知 ら せ

記者発表資料 配　　布　　日	平成２７年３月９日

■ 同時発表先：岡山県政記者クラブ
岡山市政記者クラブ
倉敷市記者クラブ

「アユもよろこぶ川の道をつくる！」

魚が上りやすい川を目指して高梁川潮止堰（しおどめぜき）の魚道（ぎょどう）を改良しています。

３月１３日（金）１０時頃～　２号魚道通水予定

倉敷市西之浦地区の高梁川で潮止堰の魚道（ぎょどう：魚の通り道）の改良工事を行っています。

魚道の改良にあたっては、専門家のほか、高梁川漁業協同組合の意見も聞きながらアユなどの魚が上りやすい設計をしており、今年度の２号魚道に引き続き、来年度も３号魚道の改良を予定しています。

国土交通省岡山河川事務所では、岡山三川（吉井川、旭川、高梁川）の安全･安心を高めるため、河川工事や維持管理に取り組んでいます。河川工事にあたっては、河川に生息する生物の保護などにも配慮した取り組みを行っているところです。

潮止堰魚道は昭和42年に現在の形で建設されており老朽化が進んでいるほか、魚の遡上に対して最新の研究成果などが反映されたものではありません。このため、魚の遡上について詳しい専門家や、地域の魚の専門家でもある高梁川漁業協同組合に意見を聞きながら、潮止堰にある４つの魚道を平成21年度から順次改良を行っているところです。

魚道の整備とあわせてアユなどの魚類の遡上について調査を行った結果、改良した魚道では遡上の増加等効果が見られています。

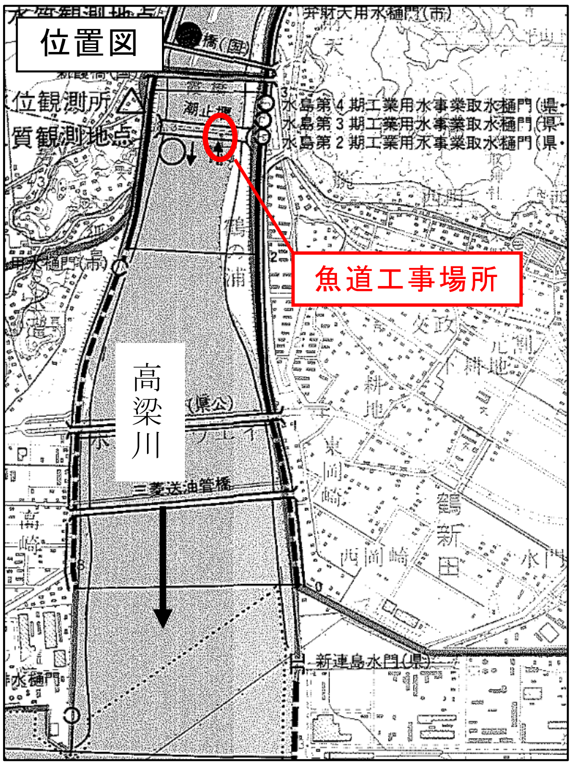
魚道の構造として、魚が上りやすい形状となるよう細かな部分についても工夫しています。

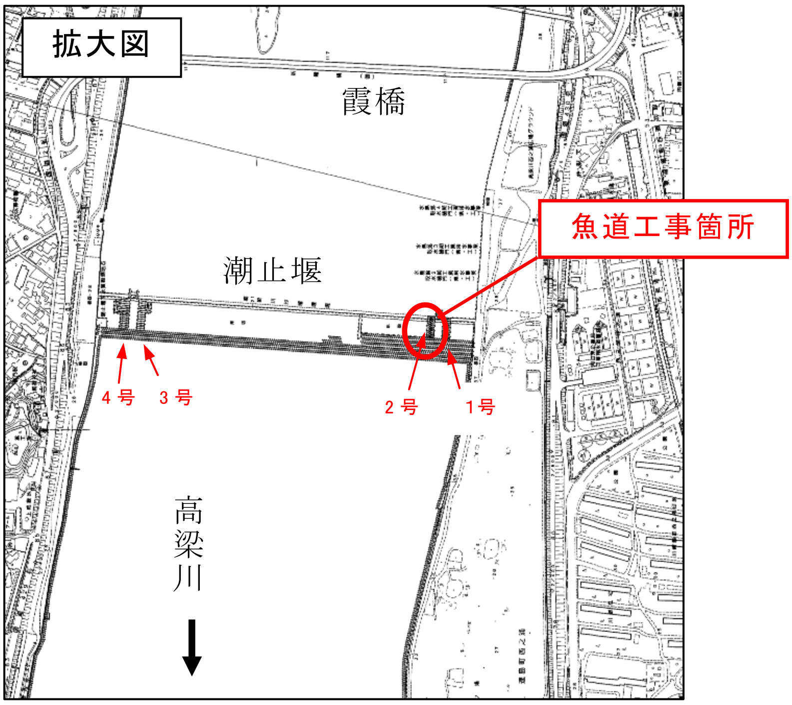
＜問い合わせ先＞
○国土交通省中国地方整備局　岡山河川事務所　　086-223-5101（代表）

【担当】副所長（技術）　庄司（しょうじ）　俊介（しゅんすけ）

管理第一課長　安達（あだち）　淳（じゅん）

岡山河川事務所ホームページアドレス
http://www.cgr.mlit.go.jp/okakawa/





現在の工事状況（２号魚道）

魚道本体（写真左）の改良と棚田式の簡易魚道（写真右）の新設工事をしています。

魚道本体改良

棚田式簡易魚道（新設）

潮止堰魚道の改良による効果

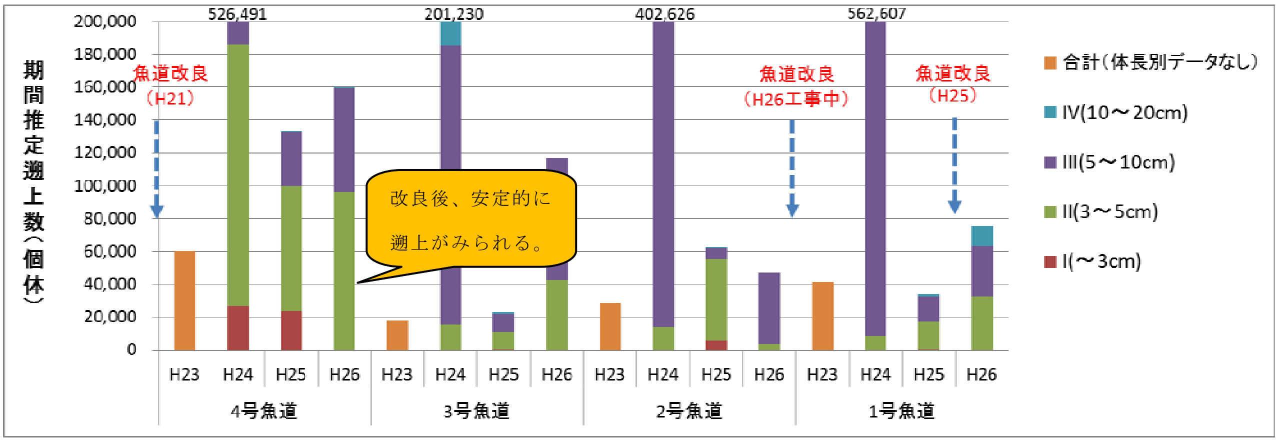
・4基ある魚道のうち、昨年度までに2基（平成 21 年度：4号、平成 25 年度：1 号）が改良済みです。
・魚道改良により、遡上数は概ね向上しています。
・カニ、エビや底生魚の遡上が容易となりました。
・堰下流の蝟集（いしゅう）※（迷入）アユが減少しました。

※蝟集：遡上できずに堰下流に寄り集まっている状況

■近年のモニタリング結果では遡上数が向上

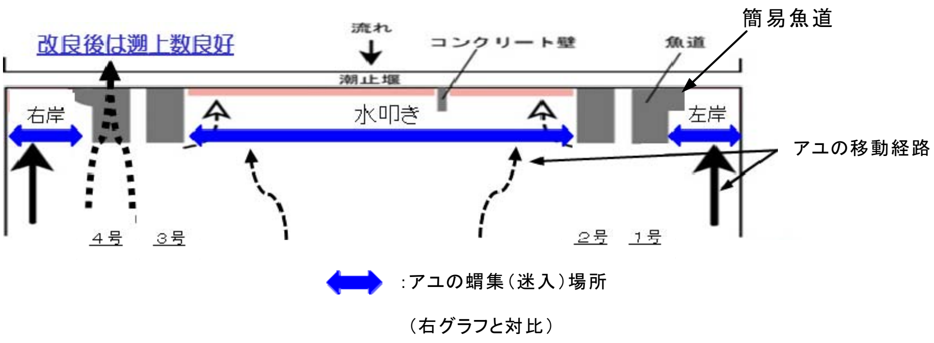
中国地方で顕著に遡上数が多かった平成 24 年を除き、概ね遡上数は向上しています。なお、平成 24 年の遡上数の例年にない大幅な増加は、前年秋の出水が親魚や仔魚の降下を促進した要因の一つとして推定されます。

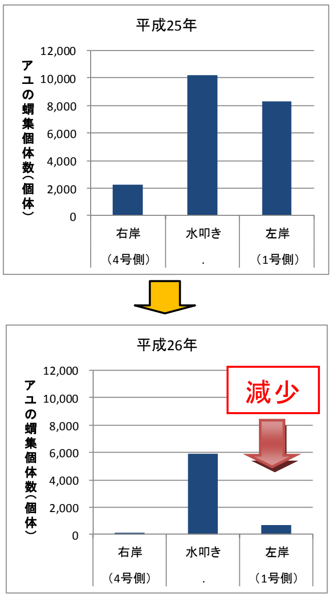
特に4号魚道では、他と比べて改良後安定的に遡上がみられるとともに、5cm 以下の稚魚の遡上数も多いことから、改良によって遊泳能力の小さい稚魚にとっても有効な魚道となっていることが確認されました。



■改良により蝟集（迷入）アユが減少

1号魚道の改良（簡易魚道を設置）により、魚道入口を見つけられずに堰下流を迷っていた蝟集アユが減少したことから、蝟集アユ対策として整備効果が確認されました。また、右岸側の蝟集が少ないのは、4 号魚道から安定的に遡上しているためと考えられます。





区域別の蝟集（迷入）アユ数

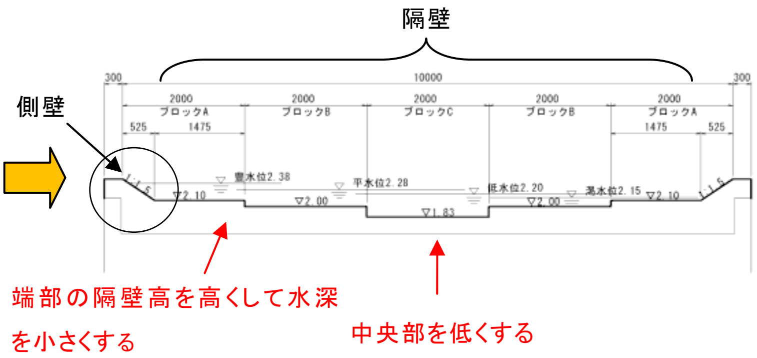
魚道構造の改良について

- 魚道構造の改良にあたっては、専門家や高梁川漁業協同組合の意見を聞きながら設計しています。
- 側壁（そくへき）を傾斜させることで、水深の浅い壁際は流れを緩くできます。また、鳥類が水際に立つことができず、鳥類が魚を捕食しづらい形状です。
- 隔壁（かくへき）を下流側に傾斜させることで、プール内の流水の乱れを抑え、魚が遡上しやすくなっています。
- 隔壁の高さを変化させることで、遊泳能力の大きい大型魚は水深の深いところを、遊泳能力の小さい小型魚は水深の浅いところを、底生種は側壁部の水際を、それぞれ遡上経路を選択できるよう工夫しています。

横断図（魚道を上流から見た図）

改良前

改良後



【隔壁】
下流に向かって傾斜をつけてプール内の流水の乱れを抑えています。

【側壁】
傾斜をつけて流れが緩やかになるようにしています。